



デデポッポー

Vol.9

京都市動物園
野生鳥獣救護センター通信
平成21年5月15日発行

ツバメがやってきた！



さあ今年も春の訪れと共にツバメが日本にやってきました。

今はせっせと子育ての真っ最中です。

今回はみなさんの身近な鳥「ツバメ」についてと、保護されるケースが多いヒナを保護しないですむ工夫について紹介したいと思います。

ツバメは暖かい時期に日本にやってくる渡り鳥で、3月中旬から10月中旬まで日本にいて、初夏に繁殖します。冬の寒い間、多くは東南アジアで生活しています。

この時期になると家の軒先などで見られるのがツバメの巣です。この巣は泥や枯れ草に唾液を混ぜて作られています。(右図)

動物園への相談や、直接救護センターに持ち込まれたケースで非常に多いのが「巣からヒナが落ちた」、「巣が壊れた」ために起こる善意の「誘拐」です。人には、ヒナに飛び方やエサの捕り方を教えることはできません。ヒナを一人前のツバメに育てるのは大変難しいのです。

なるべく親鳥に返すよう努力をしてください。



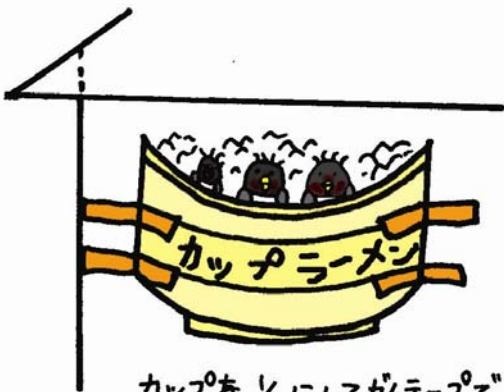
どうしたらいいの？

「巣からヒナが落ちた」

ケガをしていないかを確認し、問題がないようならなるべく巣の奥へ戻してあげてください。

「巣が壊れた」

カップラーメンの容器か、ザルやボールにティッシュペーパーなど巣材になるものを敷いて、元の位置か、そこに近い場所に固定してあげてください。元の巣から多少離れていても、親鳥は鳴き声を聞きつけて餌を運んでくれます。



カップ⁰を 1/2 にしてガムテープ⁰でとめます。